様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	言語系コース（国語） ／幾田　伸司

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され，教員の研究費配分も厳しくなってきており，教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで，科研費申請に向けて，あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1．目標・計画

① 現在、科研費に「小学校国語教科書におけるノンフィクション教材の史的研究」が採択されており、今年度が最終年度になる。そこで、まずは当該課題について研究を進める。
② 現在進めているテーマの延長として，「国語教科書のカリキュラム構造の史的研究」を新たな課題として，今年度の科研費に申請する。

2．点検・評価

① 科研費課題である「小学校国語教科書におけるノンフィクション教材の史的研究」を進め、研究論文2編を公刊した。
② 科学研究費補助金に、基盤研究(B)「言語活動企画力の習得を図る国語科教師教育カリキュラムの構築」（共同研究・研究代表）、基盤研究(B)「国語科教育改善のための言語コミュニケーション能力の発達に関する連携的・提案的研究」（研究分担者）を応募し、後者については採択された。

Ⅰ－2．大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で，あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか，具体的に示してほしい。

1．目標・計画

① 現職教員との研究会、校内研究会、各種研修の講師に積極的に参加し、本学大学院の教育内容を広く知ってもらい、進学の動機を掘り起こす。
② 学会や研究会等で，他大学の教員に対して本学大学院の広報を行う。

2．点検・評価

① 現職教員との研究会、校内研修会、各種研究会などに積極的に参加し、進学・研究に対する関心・意欲の喚起を図った。
② 学部学生に働きかけ、大学院進学への勧誘と動機付けを行い、ゼミ生のうち1名が大学院に進学した。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

① 昨年度までの授業では，模擬授業や指導案作成，表現活動とその相互評価，討議の場の確保，授業に対する感想収集を行っており，受講者からはおおむね肯定的に受けとめられている。そこで，今年度もこうした授業形態を取り入れた授業を通して実践的能力の育成を目指す。
② ゼミの指導においては，ゼミ生相互が忌憚なく発言し合えある学習環境を作ることに努める。また，各人の課題に応じて，研究の手引き，レポート・論文の書き方等について適宜，助言・指導を行う。
③ 学生・院生の相談には随時応じ、学生・院生と良好な関係を築くように努めるとともに、生活・学習の両面について支援を行う。

2．点検・評価

① 前期に引き続き、後期でも教材研究演習・模擬授業などを取り入れた授業を実施した。受講者のコメントからは、おおむね肯定的に受容されたと考えている。
②③ ゼミ指導をはじめ、模擬授業づくりの事前指導、教員採用試験対策など、学生・院生の学習や生活に対して授業外でも指導・支援を行った。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

① 科研費に採択されている「戦後小学校国語教科書におけるノンフィクション教材の史的研究」，及び継続的に進めている文学教材の教材分析論についての研究を進め，学会発表，学会誌等への投稿を行う。
② 学内外の研究者と連絡して，国語教科書研究，及び国語科教育全般についての研究を進め，科研費に申請し，採択を目指す。

2．点検・評価

① 目標で掲げた各研究領域等について、紀要論文2点（単著1・共著1）、その他論文1点を公刊した。
② 共同研究の成果について、全国大学国語教育学会で学会等発表2件（共同研究、うち1件は第一発表者）を行った。
② Ⅰ－1で述べたように、学内外の研究者と連絡して、国語科教師教育研究1件（共同研究・研究代表者）、国語科授業研究1件（研究分担者）を科学研究費補助金に応募し、後者1件については採択された。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

① 学部入試委員会委員をはじめとする各種委員会委員として，大学業務に携わる。
② 教育実習生の授業を可能な限り参観し，受け入れ校園との連係を図る。

2．点検・評価

① 学部入試委員会委員として、センター試験・学部入学試験の円滑な運営・実施に尽力した。また、附属学校運営委員会委員、カリキュラムマップ・ガイドライン研究協議会委員として、学内業務に貢献した。
② 附属校での授業参観・指導助言を教育実習生に対して積極的に行い、受け入れ校園との連携を図った。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

① 研究発表会・授業研究会等の指導助言に積極的に参加し，附属学校教員との連携を図る。
② 現職教員との研究会への参加，教育支援アドバイザーの登録，校内授業研究会への参加など，地域と連携する教育・文化活動に積極的に参加する。
③ 教員免許状更新講習，10年次研修等，地域から要請される講習を開講する。

2．点検・評価

① 附属小学校校内研究の共同研究者として研究交流を行うとともに，学部附属連絡協議会（平成24年6月・平成25年1月）で各校園教員と情報交換を行った。また、教育実習の授業参観も積極的に行った。
② 現職国語科教員との月例研究会の開催、教育支援アドバイザーの登録・指導、校内研究に対する指導助言、鳴板国語教育研究会での講演など地域で開かれる研究大会への指導・参会、等、地域と結びつく教育・文化活動を積極的に行った。
③ 国語指導力10年次研修「国語科教材研究の方法と実際」（平成24年8月）、教員免許状更新講習「国語科教育におけるリテラシーのとらえ方」(同11月）を開講した。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

① 校内研修会での指導、第50回鳴板国語教育研究集会での講演、教員免許状更新講習・十年次研修・国語指導力向上講座の講師など、地域の教育活動との連携を積極的に図った。
② 科研費ついて、代表研究1件、共同研究1件を応募した。そのうち1件は採択され、外部資金の獲得に貢献した。